



# 北海道札幌高等養護学校

## 窯業科 実習紹介

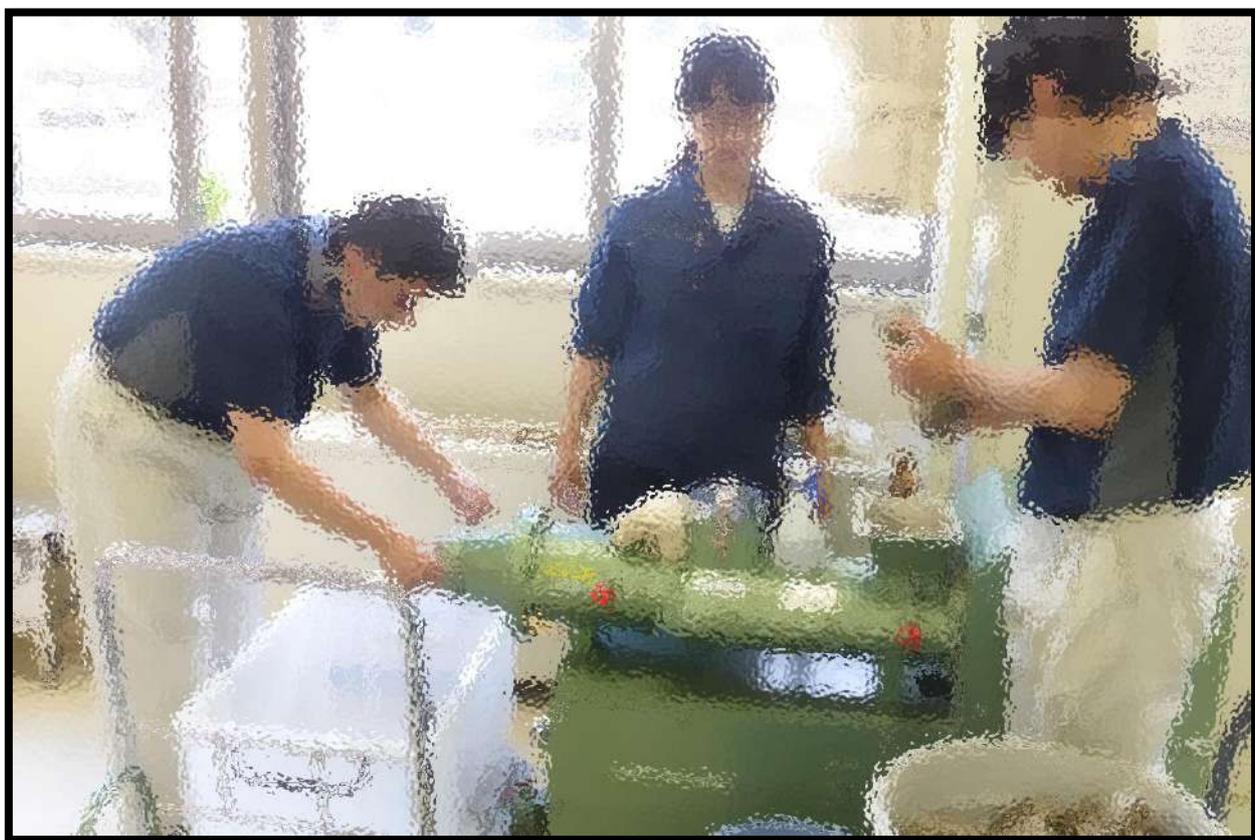
制作:20 期窯業科生徒一同



※ この学科紹介は、3学年窯業科の生徒が、教科「情報」の授業で制作したものです。一人1ページずつ担当し、文章や使う写真、レイアウトなどそれぞれのアイデアを形にしたものです。そのためページによって字の大きさや色、配置が異なるため、文書全体での統一感はありませんが、生徒の作品という性質上、そのまま掲載いたしますのでご了承ください。

# 粘土を切る・たたく

円柱状の粘土を、切り糸という  
道具を使って、指定された長さ  
切ります。長さは黒板に書かれ  
ています。切る前に粘土に印を  
付けます。切った粘土は手の平  
で叩いて薄くします。





## 底板の作り方

薄くした粘土を製品ごとに決められた厚さと大きさにするために、のし棒で伸ばします。そのあと、ろくろに載せて切り針で円形に切ります。

## よりの作り方、積み方



**「より」は粘土をテーブルの上で転がしながら伸ばして作ります。よりが乾くと割れてしまうので乾かないように気を付けます。**

**作ったよりは型に合わせて積み重ねます。積み上げたら指でならしてくっつけていきます。気を付けてることはよりがねじれないようにすることです。**

## えごて作業

形を整えながら、「より」をならします。次にえごてという道具を使って、お皿の形を整えて、きれいな形のできあがりです。

お皿の形を整えるときには、力を入れすぎるとへこむので、ちょうどよい力加減に気を付けながらやっています。



製品の仕上げ(削り)

**製品の最後の仕上げとして、かぎべらという道具で余分な粘土を削っていきます。削りすぎないように気を付けます。**





## 取っ手の作り方

細めのよりとたたたら板を使って、取っ手を作ります。取っ手と本体は「どべ」という泥状の粘土を使って付けます。その後、細いよりで取っ手の周りを囲み、道具で潰します。隙間ができるのと取っ手が弱くなってしまうので、慎重によりを潰します。

## 釉薬をかける

素焼きが終わった製品に釉薬をかけます。お皿の模様やコーヒーカップの模様はマスキングテープで付けます。全体に釉薬をかけ終わったらテープをピンセットなどではがして、噴霧器(霧吹きのようなもの)でその部分に透明の釉薬をかけます。



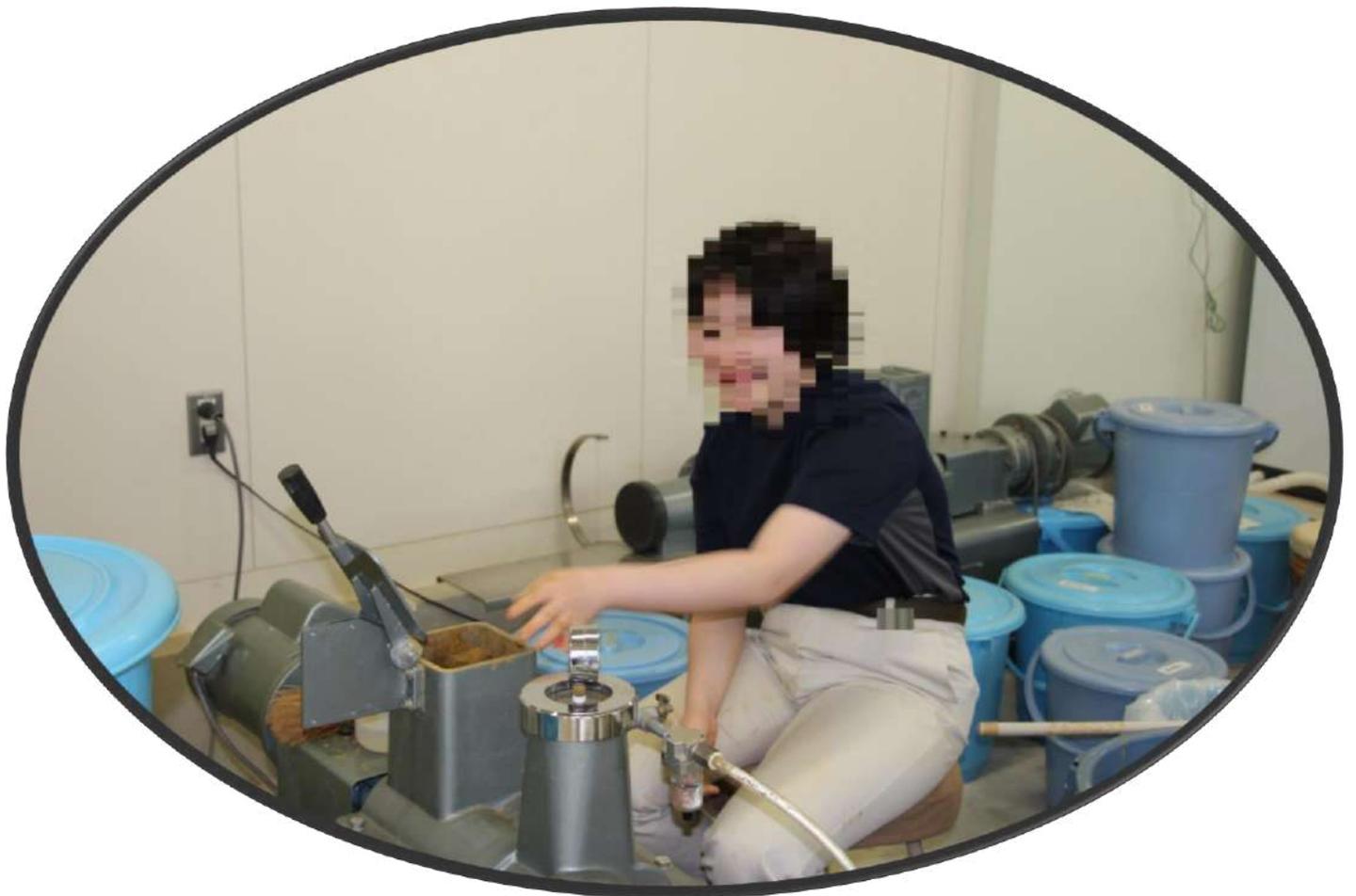
# 粘土の再生



余った粘土はもったいないので、土練機でやわらかさを調整した後に、粘土から空気を抜いてもう一度使います。

# 粘土の再生

余った粘土はもったいないので、土練機で  
やわらかさを調整して、空気を抜いてもう  
一度使います。



**ひびの入った製品を砕く作業**  
失敗した製品はバケツに入れて、  
細かくなるまで棒で叩きます。

